第3章

撮影する

基本的な撮影のしかた

撮影操作の流れと、基本的な撮影方法について説明します。

操作の流れ

基本的な撮影方法は、次のような流れになります。

電源を入れる

電源をオンにします。→ P.24

撮影モードを選択する

撮影モード（ ・ ・ ・ ）を選択します。ここでは、 （静止画）で撮影します。→ P.41

メディアを選択する

カード（CARD）、内蔵メモリー（IN）から記録先を選択します。→ P.42

フォルダーを選択する

メディア内のどのフォルダーに記録するかを選択します。→ P.43

画質モードを選択する

7 種類（2048/F N E NC・1024/F N・640/N）の画質モードから選択します。→ P.44

被写体の位置を確認する

ファインダーまたは液晶モニターを見て被写体の位置を確認します。→ P.45

被写体の大きさを決める

ズームレバーを操作して、被写体の大きさを決めます。→ P.46

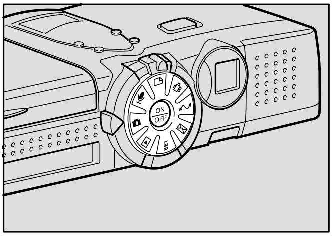
撮影する

シャッターボタンを押して撮影します。→ P.47

撮影モードを選択する

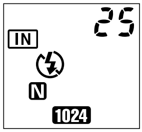
このカメラには、4種類（・・・）の撮影モードがあります。用途にあわせて撮影モードを切り替えてお使いください。
ここでは、（静止画）で撮影します。

❶ モードダイヤルを［ ］に合わせます。



参照 ・P.25「モードダイヤルの使い方」

液晶パネルや液晶モニターに記録情報が表示されます。



●液晶モニターの表示の切り替え

液晶モニターの画面表示は、DISPLAYボタンで切り替えます。DISPLAYボタンを押すごとに、「詳細情報表示→簡易表示→グリッド表示→表示なし」に切り替わります。→P.41「画面表示について（撮影モード）」

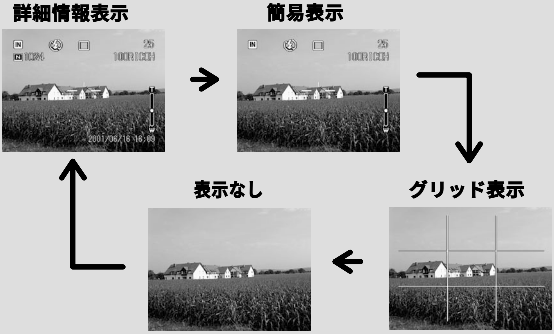


コラム

画面表示について（撮影モード）

DISPLAYボタンを押すごとに、記録モード、画質モード、記録残枚数など、撮影時の情報表示を切り替えることができます。

●静止画モードのとき



グリッドは、構図を決めるときの目安として利用します。

メディアを選択する

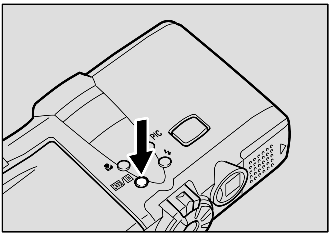
撮影したファイルを記録するメディアを選択します。

液晶パネル	液晶モニター	記　録　先
CARD	CF	CFカードまたはマイクロドライブに記録します。
IN	IN	内蔵メモリーに記録します。

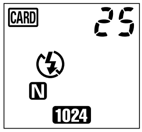
＊マイクロドライブがセットされている場合でも、液晶モニターにはCFと表示されます。

❶ CARD/INボタンを押して、記録先（カード・内蔵メモリー）を選びます。

ボタンを押すごとに記録先が切り替わります。



選択した記録先が表示されます。





補足 ・電源を入れたとき、どのメディアに記録するかを設定しておくことができます。→P.108「カメラの設定内容を記憶する」

フォルダーを選択する

撮影したファイルを、メディア内のどのフォルダーに保存するかを選択します。

❶ **FOLDER ボタンを押します。**

❷ **保存先のフォルダーを選び、ENTERボタンを押します。**



選択したフォルダーが液晶モニターに表示されます。



補足
・フォルダーを新規に作成したり、不要なフォルダーを削除することができます。→ P.106「フォルダーを追加 / 削除する」
・１つのフォルダーに最大 9999 枚まで記録できます。

画質モードを選択する

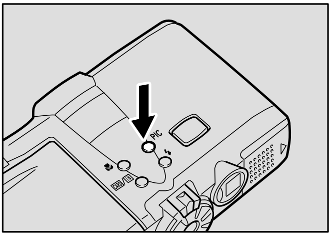
このカメラには、次の画質モードがあります。用途にあわせて切り替えてお使いください。

液晶パネル	液晶モニター
2048 F N E NC	2048 F、2048 N、2048 E、2048 NC
1024 F N	1024 F、1024 N
640 N	640 N

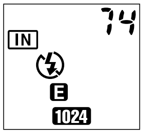
＊画質モードを切り替えると記録枚数が変わります。
＊初期設定は1024 Nです。
＊NCは、データを圧縮しないで記録するモードです。（非圧縮）

❶ PICボタンを押して画質モードを選びます。

ボタンを押すごとに画質モードが切り替わります。



選択した画質モードが表示されます。
画質モードが設定されると、電源をオフにしても設定されたモードが保持されます。





●データの目安

圧縮率 / 画素数	F ファイン	N ノーマル	E エコノミー	NC 非圧縮
2048 2048×1536	約1.18MB/画面	約597KB/画面	約302KB/画面	約6.33MB/画面
1024 1024×768	約 400KB/画面	約204KB/画面	―	―
640 640×480	―	約 84KB/画面	―	―

補足
・静止画の画素数は2048 × 1536、1024 × 768、640 × 480、動画の画素数は320 × 240です。本書および本製品では、2048・1024・640・320と表記しています。
・記録可能枚数については、「記録枚数について(P.134)」をご覧ください。

被写体の位置を確認する

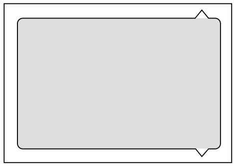
ファインダーや液晶モニターを見ながら被写体の位置を確認します。

■ファインダーの見かた

ファインダーをのぞいて被写体をとらえます。

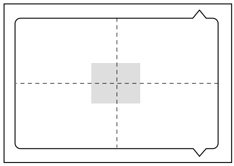
●撮影範囲枠

撮影したいものをファインダーの中におさめてください。



●オートフォーカス範囲

ピント合わせが行われる範囲です。
ファインダーの中央部にあり、おおよそ図のような範囲です。

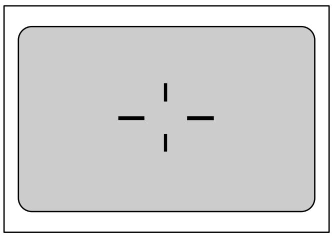


■液晶モニターの見かた

液晶モニターを見ながら被写体をとらえます。

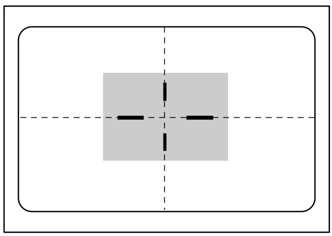
●撮影範囲枠

撮影したいものを液晶モニターの中におさめてください。



●オートフォーカス範囲

ピント合わせが行われる範囲です。
液晶モニターの中央部にあり、おおよそ図のような範囲です。



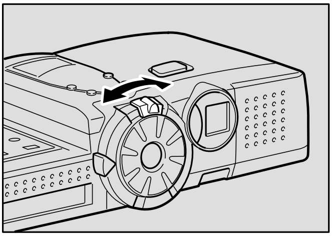
補足 ・説明のためファインダーや液晶モニター内を点線やアミかけで表現しています。実際には、点線やアミかけの表示はありません。

被写体の大きさを決める（ズーム）

ズームレバーを操作すると、撮る人は被写体までの距離を変えずに被写体の大きさを変えることができます（35mm カメラ換算で 35 ～ 105mm）。

❶ **ズームレバーを[▲]側、または[▴]側に押します。**

[▲]側に押すと被写体が大きくなり（望遠：TELE）、[▴]側に押すと被写体が小さくなります（広角：WIDE）。



液晶モニターにズームバーが表示されます。被写体の大きさを調節してください。



■デジタルズーム機能について

撮影モードが 📷（静止画）で画質モードが 640 の場合、最も望遠側（TELE 端）またはマクロモード（🌷表示）のとき、さらにズームレバーを[▲]側に押し続けると、デジタルズームが働いて 1.3 倍、1.6 倍、3.2 倍に拡大して撮影できます。
デジタルズームを解除するときは、[▴]側にズームレバーを戻します。



倍率表示

補足
・デジタルズームは、画質モードが 640 以外のときはご使用になれません。
・デジタルズーム撮影では、液晶モニターで構図を決めて撮影してください。

撮影する（静止画モード）

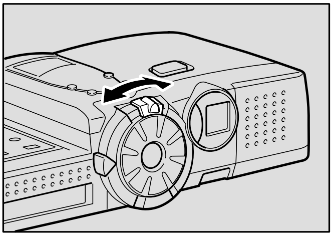
ここでは、静止画モードの撮影方法を説明します。カメラが動かないように正しく構えてください。

❶ 撮影したいものにカメラを向けます。



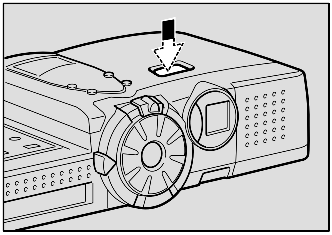
補足 ・被写体までの距離が約24cmより近いときは、マクロ撮影してください。→P.63「至近距離で撮影する（マクロ撮影）」

❷ ズームレバーを操作して、被写体の大きさを決めます。

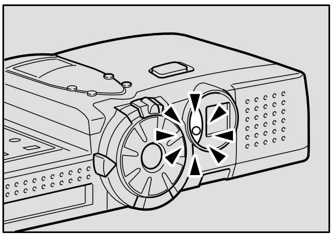


参照 ・P.45「被写体の位置を確認する」
・P.46「被写体の大きさを決める（ズーム）」

❸ 指の腹でシャッターボタンを軽く押します。



シャッターボタンは2段階になっています。軽く押すと（半押し状態）、オートフォーカスが作動し、ピント合わせが行われます。手ブレがおきないようしっかりと固定してください。

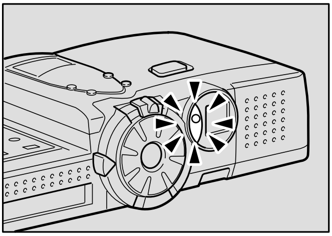


被写体にピントが合うとオートフォーカスランプ（緑）が点灯し、液晶モニターの-¦-が緑色に変わります。この時点でピント、露出、ホワイトバランスが固定されます。

補足 ・オートフォーカスランプが赤色に点滅し、液晶モニターの-¦-が赤色に変わったときはピントが合いません。フォーカスロックで撮影してください。→P.49「フォーカスロック撮影」
・「スローシャッター」と表示されたときは、手ブレすることが多いので、フラッシュ発光することをお勧めします。→P.55「フラッシュモードを変更する」

●フラッシュランプ

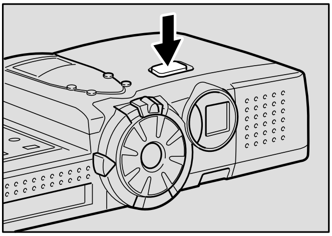
フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを軽く押したときにフラッシュランプ（赤）が点灯します。



補足　・フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。

❹ そのまま指を離さずに、シャッターボタンを静かに押しきります。

「ピッ」というブザー音が鳴り、撮影画像が表示され、記録されます。

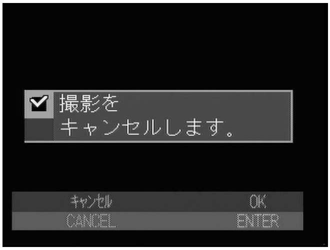


補足　・「ピッ」というブザー音が鳴る前にカメラを動かすと、手ブレすることがあります。

・音声を付けて撮影できます。→P.54「音声付き静止画 / 文字を撮影する（音声付き撮影）」

記録を中止するとき

シャッターボタンを押し切ると撮影され、撮影画像が液晶モニターに表示されます。このとき、ボタンを押し、確認のメッセージが表示されたらENTERボタンを押します。



撮影画像の表示時間は、任意に設定できます。→P.109「画像確認時間を変更する」

重要

・記録中は、電池ぶたやEJECTボタンを押してカードを取り出したり、ACアダプターを取り外さないでください。

・撮影の記録中は、オートフォーカスランプやフラッシュランプが点滅します。記録が終了するまで、モードダイヤルを回したり、電源を切ったりしないでください。
なお、撮影画像の記録中は、CARD/INボタンの切り替えや、MENUボタンを押してメニュー画面を表示することはできません。

補足 ・カメラの電源がオンのとき、設定された時間内にカメラの操作（ボタン操作）をしないと、オートパワーオフが働きます。撮影するまでに時間がかかる場合は、オートパワーオフが働かないように設定してください。→P.110「オートパワーオフの設定を変更する」
・カメラを長時間使用するときは、予備のバッテリーまたはACアダプター（別売り）を用意してください。

■ピントの合いにくい被写体

次のような被写体は、ピントが合わせられないことがあります。
・コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
・横線だけで、凹凸もないもの
・動きの速いもの
・低輝度（暗いところ）のもの
・強い逆光および反射光があるもの
・蛍光灯などのちらつきのあるもの
このような被写体を撮影するときは、写したい被写体と同じ距離にある違う被写体にピントを固定してから撮影してください。→P.49「フォーカスロック撮影」、P.64「フォーカスを切り替えて撮影する（フォーカス撮影）」

コラム

フォーカスロック撮影

通常は、ファインダーや液晶モニターのオートフォーカス範囲に見える被写体にピントが合います。ピントを合わせたい被写体がこの条件に合わない場合、その被写体にはピントが合わずボケてしまうことがあります。このようなときは、フォーカスロックで撮影します。

1. ピントを合わせたい被写体にオートフォーカス範囲を合わせます。



2. シャッターボタンを軽く押し、オートフォーカスランプが緑色に点灯し、液晶モニターの-¦-が緑色に変わったら、指をそのままの位置で止めます。
この時点でピント、露出、ホワイトバランスが固定されます。

3. 指を止めたままカメラを動かして構図を決め、シャッターボタンを押しきります。



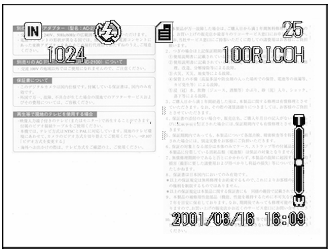
いろいろな機能を使って撮影する

ここでは、いろいろな撮影機能について説明します。撮影モードによって利用できる機能が異なります。下表を参考にしてください。

撮影モード／撮影機能		静止画	音声	文字	動画
フォルダー選択	P.43	○	○	○	○
連写撮影	P.52	○	×	×	×
セルフタイマー	P.62	○	×	×	×
音声付き撮影	P.54	○	×	○	×
フォーカス	P.64	○	×	○	○
赤目モード	P.66	○	×	×	×
フラッシュ光量	P.57	○	×	○	×
日付入れ撮影	P.67	○	×	○	×
分割撮影	P.68	○	×	×	×
シャープネス	P.71	○	×	×	×
モノトーン	P.72	○	×	×	○
インターバル	P.73	○	×	○	×
オートブラケット	P.74	○	×	×	×
ISO感度設定	P.75	○	×	○	×
測光方式	P.76	○	×	×	×
長時間露光	P.77	○	×	×	×
スタンプ	P.78	○	×	×	×

文字を撮影する（文字モード）

文字を記録します。文字などの記録に適した処理を行い、黒と白の２つの値だけで記録します（通常の1/3以下のデータ量で記録できます）。黒と白の濃淡は、文字をより読みやすくするために5段階（◑-2、◑-1、0（表示なし）、◑+1、◑+2）で設定できます。



❶ モードダイヤルを［ ］に合わせます。

❷ ◀・▶ボタンを押して黒と白の濃淡を調整します。

－側にすると黒の濃度が薄くなり、＋側にすると、黒の濃度が濃くなります。

補足
・パソコン側で撮影する場合、濃淡調整は「スキャナー濃淡」で行います。
・2048、1024のみ選択できます。

❸ シャッターボタンを押して撮影します。
撮影画像が表示され、記録されます。

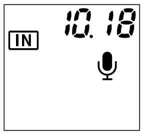
補足
・撮影画像が液晶モニターに表示されているとき、🗑ボタンを押すと記録を中止できます。→ P.48「撮影する（静止画モード）」
・音声付きで撮影できます。→P.54「音声付き静止画/文字を撮影する（音声付き撮影）」

音声を記録する（音声モード）

音声を記録します。記録先の残り容量に応じて、録音できる時間が表示されます。

重要
・マイクは、カメラ前面にあります。最適な状況で録音できるように、カメラの向きを調整してください。
・携帯電話を使用する場合は、雑音防止のため30cm以上離してください。

❶ モードダイヤルを［🎙］に合わせます。
液晶モニターや液晶パネルに、録音可能な時間が表示されます。



❷ シャッターボタンを押して録音します。
録音が開始されます。録音中は🎙が点滅し、録音時間が表示されます。
再度シャッターボタンを押すと、録音を中止できます。

録音可能時間



補足
・音声の録音最大値は999:5（999分59秒）です。
・録音/録音可能時間が100分を超える場合、液晶モニターと液晶パネルには、秒の1桁目は表示されません。
・録音中、PICボタンを押すと静止画を撮影できます。記録先メディア、ズーム、画質、フラッシュは撮影前の設定になります。撮影時は、録音が一時中断され、撮影終了後、再開します。

動画を撮影する（動画モード）

動画を撮影します。記録先の残り容量に応じて、撮影できる時間が表示され、音声も同時に記録されます。

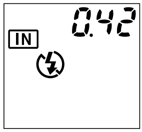
重要
・マイクは、カメラ前面にあります。
・携帯電話を使用する場合は、雑音防止のため30cm以上離してください。

❶ モードダイヤルを［ ］に合わせます。

液晶モニターや液晶パネルに、撮影可能な時間が表示されます。

❷ シャッターボタンを押して撮影します。

撮影が開始されます。
再度シャッターボタンを押すと、撮影を終了します。



記録可能時間



補足
・撮影中は、ズームは作動しません。
・動画モードでは、フラッシュは発光しません。
・シャッターボタンを軽く押したときの状態で、フォーカスや露出、ホワイトバランスが固定されます。
・最大記録時間は、１ファイルにつき10分です。

連続して撮影する（連写撮影）

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。シャッターチャンスを逃がすことなく撮影したいときに便利です。

❶ モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENUボタンを押します。

❷［連写］を選び、▶ボタンを押します。



❸［ON］を選び、ENTER ボタンを押します。



補足 ・［OFF］を選択すると、連写撮影を解除できます。

❹ CANCEL ボタンを押してメニュー画面を終了します。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。

シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。
シャッターボタンから指を離すと連続撮影は停止します。



補足 ・連写撮影では、フラッシュは発光しません。
・連写撮影では、非圧縮は選べません。
・シャッターボタンを押したときの状態で、フォーカスや露出、ホワイトバランスが固定されます。
・ファイル名がRIMG9999になった場合は、連写撮影はできません。記録先のフォルダーを変更してから撮影してください。

●連続撮影できる最大枚数

画質モードによって、連続撮影できる最大枚数は次のようになります。

圧縮率 / 画素数	F ファイン	N ノーマル	E エコノミー
2048 2048×1536	約 5枚	約 12枚	約 24枚
1024 1024×768	約 17枚	約 36枚	―
640 640×480	―	約 89枚	―

＊１回に連続して撮影できる最大枚数です。続けて撮影できる枚数は、メディア内の容量によって変わります。

音声付き静止画 / 文字を撮影する（音声付き撮影）

静止画または文字と音声を約10秒記録します。撮影状況やコメントを添えるときに利用します。

重要
・マイクは、カメラ前面にあります。最適な状況で録音できるように、カメラの向きを調整してください。
・携帯電話を使用する場合は、雑音防止のため30cm以上離してください。

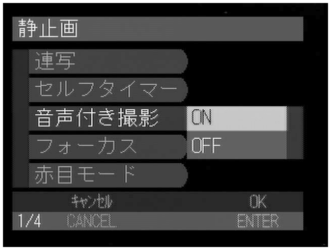
❶ モードダイヤルを［📷］または［文字］に合わせ、MENUボタンを押します。

❷［音声付き撮影］を選び、▶ボタンを押します。



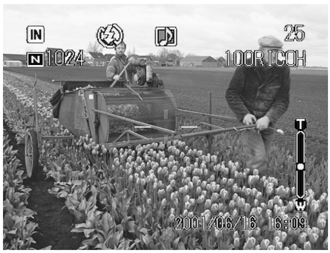
❸［ON］を選び、ENTERボタンを押します。

補足 ・［OFF］を選択すると、音声付き撮影を解除できます。



❹ CANCELボタンを押してメニュー画面を終了します。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。
撮影画像が表示されたあと、音声が約10秒記録されます。音声記録中は🎤が点滅します。



補足
・シャッターボタンを軽く押したときの状態で、フォーカスや露出、ホワイトバランスが固定されます。
・撮影画像の記録後に録音を開始します。このとき液晶モニターや液晶パネルの🎤の点滅で、録音を確認してください。
・録音中、再度シャッターボタンを押すと記録を終了します。

フラッシュモードを変更する

このカメラでは、４種類のフラッシュモードがあります。撮影状況に合わせてモードを切り替えてお使いください。

表示	モード名	内　容
⊘	**発光禁止**	暗いところでもフラッシュは発光しません。フラッシュ撮影が禁止されているときや、室内の照明を利用して撮影するときに使用します。
⚡A	**オート**	暗い場所や逆光のときに、自動的にフラッシュを発光します。
⚡ **点灯**	**強制発光**	逆光や強い光の下で人物を撮影すると、顔に強い影ができることがあります。このような影をやわらげたいときに使用します。明るさに関係なく、常にフラッシュが発光します。
⚡ **点滅**	**スローシンクロ**	フラッシュを発光して撮影する際、被写体にフラッシュの光があたり、背景も遅いシャッタースピードで撮影できます。 フラッシュを発光させたときに背景だけが暗くなるのを軽減できるので、室内パーティーなど、背景の雰囲気を活かして被写体をきれいに撮影したいときに使用します。

＊初期設定は、⊘（発光禁止）です。

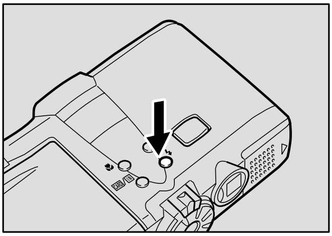
フラッシュの光が届く距離

フラッシュを発光させて撮影する場合、撮影距離は約0.6～2.5mです。被写体にフラッシュの光が届かないと、被写体が暗く撮影されます。

❶ モードダイヤルを［📷］または［ ］に合わせます。

❷ ⚡ ボタンを押して、フラッシュモード（⊘・⚡A・⚡ 点灯・⚡ 点滅）を選びます。

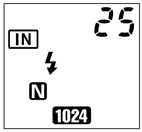
ボタンを押すごとにフラッシュモードが切り替わります。



選択したフラッシュモードが表示されます。オートモードの場合は、液晶モニターにのみ⚡Aが表示され、液晶パネルには表示されません。

❸ シャッターボタンを押して撮影します。

フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを軽く押したときにフラッシュランプ（赤）が点灯します。
フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。





重要

- 近い被写体（約0.6m以下）をフラッシュ撮影すると、フラッシュの光が赤く写ることがあります。また、露出オーバーになるため、被写体が白っぽく撮影されることがあります。このようなときは、発光禁止モードで撮影してください。
- 暗いところでは自動的にシャッタースピードが遅くなります。カメラブレが起きないようにしっかり構えるか、三脚を使用して撮影してください。特に望遠側（[♠]）では、カメラブレにご注意ください。

補足

- 次の場合、フラッシュは発光しません。
  撮影モードが 🎤（音声）、❐（連写撮影設定時）、🎥（動画）のとき
  ホワイトバランスが☀（屋外）、☁（曇天）、💡（白熱灯）、▭（蛍光灯）のとき
  マクロモード（🌷）のとき
  オートブラケット撮影時
- フラッシュモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.108「カメラの設定内容を記憶する」
- フラッシュを利用して撮影するとき、液晶モニターが暗く見える場合は、広角側で撮影してください。望遠側ではピントが合いにくいことがあります。
- 赤目モードを利用すると、赤目を軽減して撮影できます。→P.66「赤目モードで撮影する（赤目モード）」

■フラッシュの光量を調整する

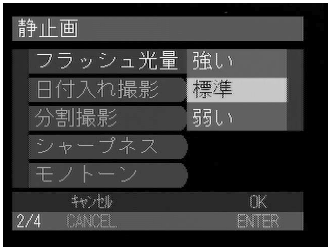
フラッシュが発光するとき（⚡A・⚡点灯・⚡点滅）、フラッシュの光量を調整して撮影できます。

❶ モードダイヤルを［ ］または［ ］に合わせ、MENUボタンを押します。

❷［フラッシュ光量］を選び、▶ボタンを押します。



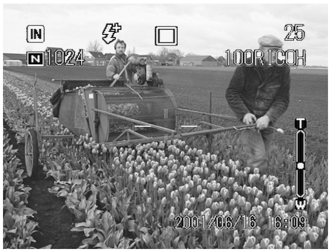
❸ 光量（強い・標準・弱い）を選び、ENTERボタンを押します。



❹ CANCELボタンを押してメニュー画面を終了します。

液晶モニターには、強いときは＋、弱いときは－が表示されます。標準のときは表示はありません。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。



補足
・フラッシュ光量の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.108「カメラの設定内容を記憶する」

露出を補正する

通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動で逆光補正を行うので、このまま撮影することができます。しかし、背景と被写体との間に極端な明暗差がある場合、被写体の露出がアンダー（暗い）やオーバー（白っぽい）になってしまいます。このようなときに露出補正をします。また、意図的に露出アンダーやオーバーな撮影をしたいときにも使用できます。

●露出補正の範囲

± 2.0EV（0.25EV ステップで設定）

●逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体は露出アンダーになります。このようなときは＋側に数値を増やして補正します。

重要

・逆光のとき、撮影範囲の中央に被写体がないときには、カメラは逆光状態と判断しません。露出補正をしてください。

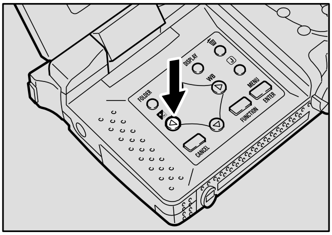
●白っぽい被写体を写す場合

全体に白っぽい被写体を写すときは、全体的に露出アンダーになり、人物などは暗く、白いものはグレーのように写ります。このようなときは＋側に数値を増やして補正します。

●黒っぽい被写体を写す場合

全体に黒っぽい被写体を写すときは、全体的に露出オーバーになり、人物などは白く、黒いものはグレーのように写ります。このようなときは－側に数値を増やして補正します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

❶ モードダイヤルを［📷］または［🎥］に合わせ、☒ボタンを押します。



❷ ▲・▼ボタンを押して補正値を変更し、ENTER ボタンを押します。

▲ボタンを押すと数値が進み、▼ボタンを押すと数値が戻ります。



❸ シャッターボタンを押して撮影します。



補足
・露出補正の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.108「カメラの設定内容を記憶する」
・設定した補正値を基準に -0.5EV、0、+0.5EV の補正値で、連続して 3 コマ撮影できます。設定した補正値の確認に便利です。→ P.74「オートブラケット撮影のしかた（オートブラケット）」

ホワイトバランスを変更する

ホワイトバランスモードは、どんな光源の下でも自然の色合いで撮影できるようホワイトバランスを調整する機能です。通常はオートモードで撮影します。
オートモードのときは、どんな光源の下でも白いものを白く撮影するよう、白色系の部分を基準にホワイトバランスを自動的に調整しています。そのため、被写体に白色系の部分が少ない場合や暗い場合は、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときに、ホワイトバランスモードを変更して撮影してください。

表示	モード名	内　容
AUTO	**オート**	カメラにまかせて自動で調整します。
	**屋外**	屋外の撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	**曇天**	曇天や日陰などの撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	**白熱灯**	白熱灯の下の撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	**蛍光灯**	蛍光灯の下の撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	**マニュアルホワイトバランス**	ホワイトバランスを任意に調整することができます。

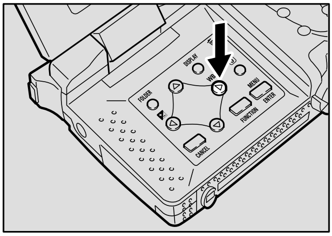
＊初期設定は、オートモードです。

オートホワイトバランスの苦手な被写体

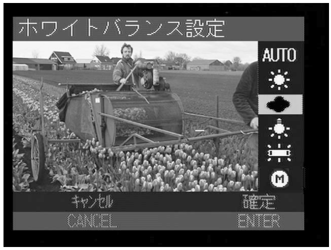
・単一色な被写体
・複数の光源のある被写体

■オート（AUTO）、屋外（）、曇天（）、白熱灯（）、蛍光灯（）を選択する

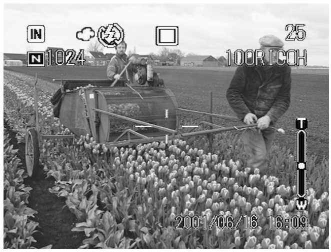
❶ **モードダイヤルを［］または［］に合わせ、WBボタンを押します。**



❷ **ホワイトバランス（AUTO・、、、）を選び、ENTERボタンを押します。**



❸ **シャッターボタンを押して撮影します。**



補足

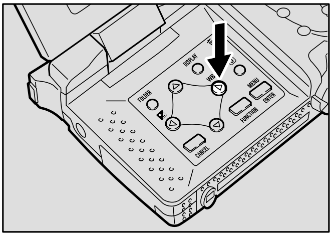
・オートモードの場合、被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
・（屋外）、（曇天）、（白熱灯）、（蛍光灯）のときは、フラッシュは発光しません。
・ホワイトバランスの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.108「カメラの設定内容を記憶する」

重要

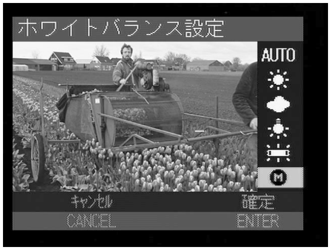
・同じ被写体を撮影しても、天候や光源（白熱灯や蛍光灯）の種類により色の度合いが異なります。

■マニュアルホワイトバランス（M）を選択する

❶ モードダイヤルを［📷］または［🎥］に合わせ、WBボタンを押します。

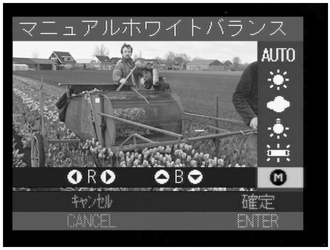


❷ マニュアルホワイトバランス（M）を選び、ENTERボタンを押します。

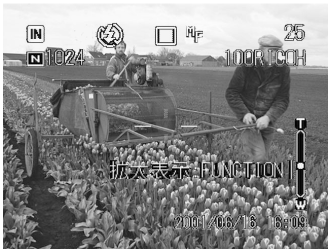


❸ 設定されたホワイトバランスの状態でよければ、ENTERボタンを押します。

ホワイトバランスを微調整したい場合は、▲・▼・▶・◀ボタンを押してからENTERボタンを押します。画面の◀、▶、▲、▼が消えるまで微調整できます。



❹ シャッターボタンを押して撮影します。



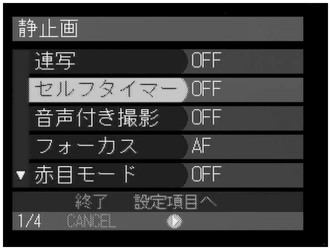
補足 ・ホワイトバランスの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.108「カメラの設定内容を記憶する」

セルフタイマーを使って撮影する（セルフタイマー）

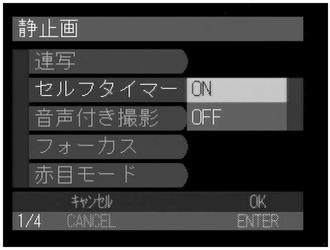
撮影者自身も入った記念撮影などを行うときにセルフタイマーを使用すると便利です。カメラを三脚や水平な台の上に固定して撮影してください。

❶モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENUボタンを押します。

❷［セルフタイマー］を選び、▶ボタンを押します。

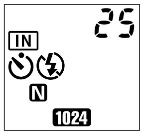


❸［ON］を選び、ENTERボタンを押します。



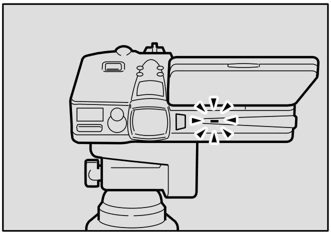
❹CANCELボタンを押してメニュー画面を終了します。

液晶モニターや液晶パネルにマークが表示されます。





❺ 構図を決め、カメラを固定したら、シャッターボタンを押します。



セルフタイマーランプが点灯し、セルフタイマーがスタートします。約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる約2秒前からセルフタイマーランプが点滅に変わり、「ピピピピッ」というブザー音が鳴ります。シャッターが切れると、セルフタイマーは解除されます。

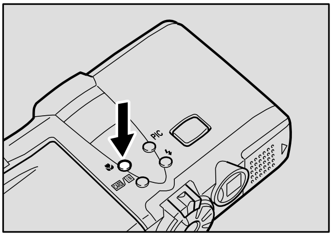
補足
- フラッシュが充電中のときは、充電が完了してからセルフタイマー撮影を開始します。
- シャッターボタンを押した時点でピントは固定されます。

コラム
遠距離操作について
離れた位置や固定した位置にカメラを設置してお使いになるときは、リモートコントローラー（別売り）と組み合わせてお使いください。

至近距離で撮影する（マクロ撮影）

被写体に近づいてクローズアップで撮影することをマクロ撮影といいます。被写体までの距離が約24cmより近いときはマクロ撮影してください。

❶ モードダイヤルを［・・］のいずれか合わせ、ボタンを押します。



補足
- 連写撮影時もマクロ撮影できます。
→P.52「連続して撮影する（連写撮影）」

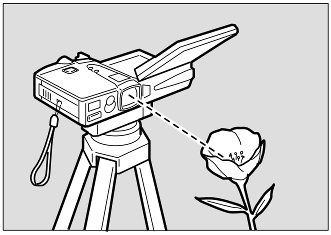
液晶モニターにマークが表示されます。



補足
- 再度ボタンを押すと、マクロ撮影を中止できます。

❷ **被写体に近づいて構図を決め、シャッターボタンを軽く押してピントを合わせます。**

❸ **シャッターボタンを押して撮影します。**



重要

・マクロ撮影ではピント合わせの範囲がせまいため、カメラが動くとピントが外れることがあります。カメラが動かないように、三脚などでしっかりとカメラを固定して撮影してください。
・ファインダーでの視野と撮影される範囲が大きくずれますので、液晶モニターまたはカメラをテレビに接続して、撮影範囲を確認しながら撮影してください。

コラム

シャッターボタンについて
三脚などでカメラを固定したためシャッターボタンが押しにくいときは、リモートコントローラー（別売り）を使用すると便利です。

補足 ・マクロモードでは、フラッシュは発光しません。

フォーカスを切り替えて撮影する（フォーカス撮影）

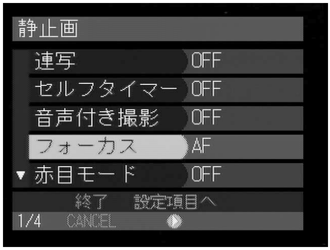
このカメラでは4種類のフォーカス撮影ができます。

表示	モード名	内　容
(表示なし)	AF　(オートフォーカス)	カメラが自動でピントを合わせます。
MF	MF　(マニュアルフォーカス)	手動でピントを合わせて撮影できます。
S	SNAP (スナップ)	約2.5mの距離の被写体にピントを合わせて撮影できます。
∞	∞　(無限)	風景などの遠くにある被写体にピントを合わせて撮影できます。

■オートフォーカス（AF）、SNAP（S）、無限（∞）に設定する

❶ **モードダイヤルを［📷・🖹・🎥］のいずれかに合わせ、MENUボタンを押します。**

❷［フォーカス］を選び、▶ボタンを押します。



❸**フォーカスモード（AF・SNAP・∞）を選び、ENTER ボタンを押します。**



❹**CANCEL ボタンを押してメニュー画面を終了します。**

液晶モニターに設定したモードが表示されます。オートフォーカス（AF）の場合は表示されません。

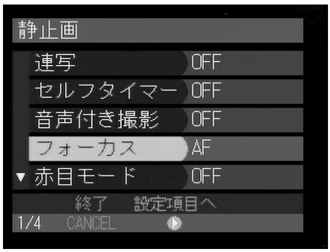
❺**シャッターボタンを押して撮影します。**



■マニュアルフォーカス（MF）に設定する

❶**モードダイヤルを［・・］のいずれかに合わせ、MENUボタンを押します。**

❷**［フォーカス］を選び、▶ボタンを押します。**



❸ マニュアルフォーカス（MF）を選び、ENTERボタンを押します。



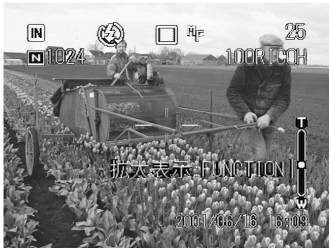
❹ CANCELボタンを押してメニュー画面を終了します。

液晶モニターにMFが表示されます。

❺ ▲・▼ボタンを押してピントを合わせ、シャッターボタンを押して撮影します。

被写体の大きさを変えるときは、ズームレバーを押します。

FUNCTIONボタンを押すと、被写体の中央部分が拡大表示されピント調整がしやすくなります。



補足
・シャッターボタンを軽く押したときに（半押し）、PICボタンを押すと、マニュアルフォーカスに切り替えることができます。
・フォーカスの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。
→P.108「カメラの設定内容を記憶する」

赤目モードで撮影する（赤目モード）

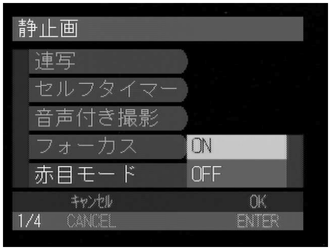
暗いところでフラッシュが発光したとき、目が赤く写ることがあります。この現象を「赤目」といいます。赤目を軽減したいときに、このモードを使用します。シャッターが切れる前にフラッシュが数回発光し、これにより赤目が軽減されます。

❶ モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENUボタンを押します。

❷［赤目モード］を選び、▶ボタンを押します。



❸ **［ON］を選び、ENTERボタンを押します。**



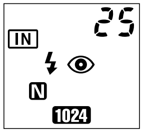
補足 ・［OFF］を選択すると、赤目モードを解除できます。

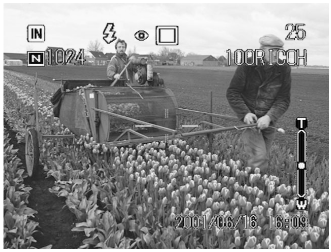
❹ **CANCELボタンを押してメニュー画面を終了します。**

液晶パネルや液晶モニターに👁マークが表示されます。

❺ **シャッターボタンを押して撮影します。**

シャッターボタンを押すと、フラッシュが数回連続して予備発光したあと、本発光してシャッターが切れます。





重要
・シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまで、約1秒かかります。カメラをしっかりと構えて撮影してください。

補足 ・フラッシュモードが⚡̸（発光禁止）のときは利用できません。

日付を入れて撮影する（日付入れ撮影）

日付を入れて撮影するときに使用します。

補足 ・SETモードで正しい日時を設定してください。日付の表示形式は、日付設定で選択した書式になります。→P.31「日付や時刻を設定する」

❶ **モードダイヤルを［📷］または［📄］に合わせ、MENUボタンを押します。**

❷ **［日付入れ撮影］を選び、▶ボタンを押します。**



❸ 日付の種類（日付・日時）を選び、ENTERボタンを押します。



2001年6月16日10時15分を例にすると、次のように表示されます。

・日付・・・2001/06/16（年 / 月 / 日）

・日時・・・2001/06/16 10：15（年/月/日 時：分）

補足 ・［OFF］を選択すると、日付入れ撮影を解除できます。

❹ CANCEL ボタンを押してメニュー画面を終了します。

日付入れ撮影が設定されると、液晶モニターの日付がオレンジ色の文字に変わります。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。

補足 ・日付入れ撮影の設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.108「カメラの設定内容を記憶する」

画面を 2 分割して撮影する（分割撮影）

画面を上下あるいは左右に撮影範囲を 2 分割します。

モード名	内　　容
新規撮影	撮影範囲を2分割して撮影します。2回の撮影で１ファイルになります。分割した範囲の片側だけを撮影することもできます。
追加撮影	記録している画像を呼び出して、その画像の指定した分割位置に撮影を追加します。別ファイルとして保存します。

補足 ・分割撮影は、液晶モニターで行ってください。
・次の場合、分割撮影は使用できません。
撮影モードが（音声）、（文字）、（動画）のとき
非圧縮モード（NC）のとき
連続撮影、音声付き撮影のとき
・分割撮影設定後は、デジタルズーム、オートブラケットモード、マニュアルフォーカス、ホワイトバランス設定、露出補正設定はできません。

❶ モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENU ボタンを押します。

❷［分割撮影］を選び、▶ボタンを押します。



❸ 設定する項目を選び、ENTERボタンを押します。

設定する項目によって操作が異なります。

・新規撮影モードで撮影する　→ P.69

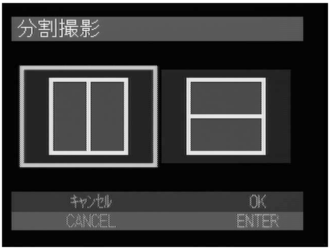
・追加撮影モードで撮影する　→ P.70



■新規撮影モードで撮影する

❶ 分割撮影メニューで［新規］を選び、ENTER ボタンを押します。

❷ ◀・▶ボタンを押して分割する撮影方法を選び、ENTER ボタンを押します。



❸ ▲・▼ボタンまたは◀・▶ボタンを押して、撮影開始位置を選びます。



❹ シャッターボタンを押して撮影します。

続けて 2 回目の撮影を行います。

補足　・片側画面撮影終了後、FUNCTION ボタンを押すと、その状態で記録され、追加撮影モードで再度撮影することができます。→ P.70 「追加撮影モードで撮影する」

■追加撮影モードで撮影する

❶ 分割撮影メニューで［追加］を選び、ENTER ボタンを押します。

記録されている画像が 6 画面表示で表示されます。

❷ 追加撮影する画像を選択し、ENTERボタンを押します。

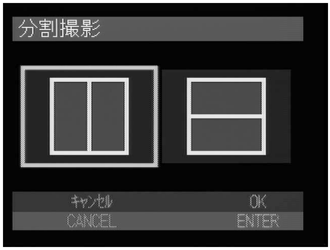
太枠で囲まれている画像は選択画像を表します。



補足 ・分割撮影の6画面表示で、追加撮影できないファイルは淡いブルーで表示されます。

❸ ◀・▶ボタンを押して分割する撮影方法を選び、ENTER ボタンを押します。

選択された画像が分割撮影画面の片側に表示されます。



❹ ▲・▼ボタンまたは◀・▶ボタンを押して、撮影開始位置を選びます。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。



補足 ・撮影モードが文字モード、非圧縮モード（NC）で撮影された画像は追加撮影することができません。

シャープネスモードで撮影する（シャープネス）

被写体の輪郭の強調レベルを3段階（-1、0、+1）に調整して撮影します。

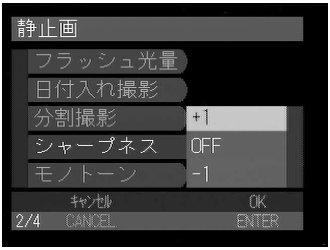
❶ モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENUボタンを押します。

❷［シャープネス］を選び、▶ボタンを押します。



❸ レベル（-1・+1）を選び、ENTERボタンを押します。

－側（-1）にすると、被写体の輪郭をなめらかにして撮影します。＋側（+1）にすると、被写体の輪郭を強調して撮影します。



補足 ・［OFF］を選択すると、シャープネスモードを解除できます。

❹ CANCELボタンを押してメニュー画面を終了します。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。



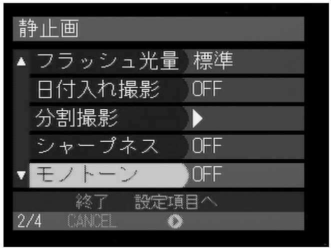
補足 ・シャープネスモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.108「カメラの設定内容を記憶する」

モノトーンモードで撮影する（モノトーン）

被写体をモノクロまたはセピア調に撮影します。

❶ **モードダイヤルを［ ］または［ ］に合わせ、MENU ボタンを押します。**

❷ **［モノトーン］を選び、▶ボタンを押します。**



❸ **モノトーンモード（B&W・SEPIA）を選び、ENTER ボタンを押します。**

モノクロで撮影するときは［B&W］、セピアで撮影するときは［SEPIA］を選びます。

補足 ・［OFF］を選択すると、モノトーンモードを解除できます。



❹ **CANCEL ボタンを押してメニュー画面を終了します。**

❺ **シャッターボタンを押して撮影します。**



補足 ・モノトーンモードを選択すると、ホワイトバランスモードは機能しません。
・モノトーンモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.108「カメラの設定内容を記憶する」

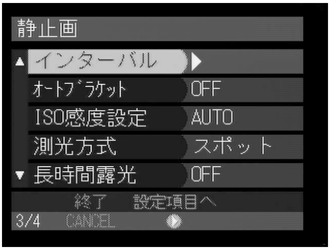
インターバル撮影のしかた（インターバル）

設定した時間間隔で自動的に撮影します。時間間隔は30秒〜3時間00分00秒の範囲で、30秒間隔で設定します。
例えば、時間間隔を1時間に設定すると、1時間ごとにシャッターが切れ、記録先のメディアの容量がなくなるまで連続して撮影します。

重要
- インターバル撮影を行う際、メディアの撮影可能枚数を確認してから設定してください。
- インターバル撮影の場合、撮影を開始してから24時間後にオートパワーオフが働きます。（ACアダプター使用時も同様）

❶ モードダイヤルを［ ］または［ ］にに合わせ、MENUボタンを押します。

❷［インターバル］を選び、▶ボタンを押します。



❸ 時間間隔を設定し、ENTERボタンを押します。
インターバルタイマーが設定されます。



参照
- P.29「（スピンボックス）の使い方」

❹ CANCELボタンを押してメニュー画面を終了します。

補足
- 「インターバル」の文字が点灯しているときは、CANCELボタンでインターバル撮影を中止できます。

❺ シャッターボタンを押します。

最初の１枚が撮影され、これ以降、設定した時間間隔で撮影されます。撮影中は、「インターバル」の文字が点滅し、メディアの容量がなくなると撮影を終了します。



〈補足〉
・撮影中は、CANCELボタンを押すとインターバル撮影を中止できます。
・インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。設定した時間間隔はずれません。
・画質モードやフラッシュモードの設定によっては、設定した時間より撮影間隔が長くなる場合があります。
・バッテリーを使用した撮影では、インターバル撮影の途中でバッテリー切れになってしまうことがあります。ACアダプター（別売り）を使用して撮影してください。

オートブラケット撮影のしかた（オートブラケット）

「露出を補正する（P.58）」で設定した補正値を基準に、-0.5EV、0、+0.5EVの補正値で３コマ連続して撮影します。露出補正の確認に便利です。
手ブレしないようカメラを三脚や水平な台の上に固定して撮影してください。

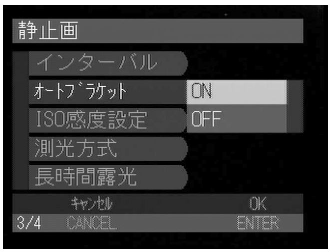
❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENUボタンを押します。

❷［オートブラケット］を選び、▶ボタンを押します。



❸［ON］を選び、ENTERボタンを押します。

〈補足〉
・［OFF］を選択すると、オートブラケット撮影を解除できます。



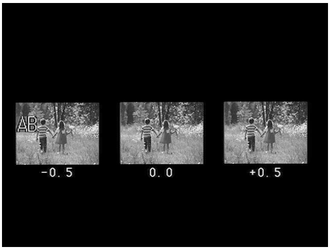
❹ CANCELボタンを押してメニュー画面を終了します。

液晶モニターにABが表示されます。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。



シャッターボタンを押すと、設定された露出補正値を基準に、-0.5EV、0、+0.5EVで3コマ連続撮影されます。



補足
・画質モードが非圧縮モード（NC）のとき、または［音声付き撮影］が［ON］の場合、オートブラケット撮影は利用できません。
・オートブラケット撮影では、フラッシュは発光しません。

撮影感度を変更する（ISO感度設定）

撮影感度を切り替えて撮影できます。

❶ モードダイヤルを［ ］または［ ］に合わせ、MENUボタンを押します。

❷［ISO感度設定］を選び、▶ボタンを押します。



3
撮影する

❸ **撮影感度（AUTO・ISO200・ISO400・ISO800）を選び、ENTER ボタンを押します。**



❹ **CANCEL ボタンを押してメニュー画面を終了します。**

液晶モニターに撮影感度が表示されます。

❺ **シャッターボタンを押して撮影します。**



補足 ・撮影感度の設定を保持するときは、モード保持を設定してください。
→ P.108「カメラの設定内容を記憶する」

測光方式を変更する（測光方式）

カメラの測光方式を切り替えて撮影できます。

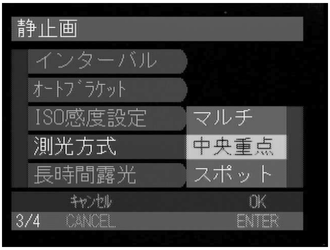
モード名	内　容
マルチ	液晶モニター内をいくつかに分割して測光します。逆光時の撮影にも適しています。
中央重点	液晶モニターの中央部分を重点的に、画面全体を平均的に測光します。
スポット	液晶モニター中央部の明るさに露出を合わせます。逆光や被写体に強い光があたるときに利用します。

❶ **モードダイヤルを［ 📷 ］に合わせ、MENU ボタンを押します。**

❷ **[測光方式] を選び、▶ボタンを押します。**



❸ **測光方式（マルチ・中央重点・スポット）を選び、ENTER ボタンを押します。**



❹ **CANCEL ボタンを押してメニュー画面を終了します。**

❺ **シャッターボタンを押して撮影します。**



長時間露光モードで撮影する（長時間露光）

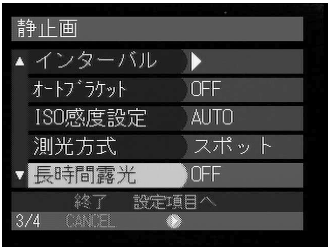
暗い所で、花火や走っている車などの明るい被写体を撮影するとき、長時間露光モードを設定して撮影します。

重要

・長時間露光モードでは、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

❶ **モードダイヤルを［ 📷 ］に合わせ、MENU ボタンを押します。**

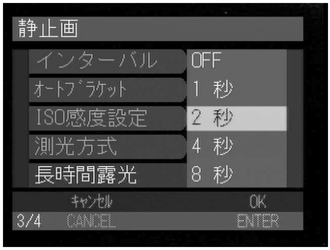
❷ **［長時間露光］を選び、▶ボタンを押します。**



3

撮影する

❸ 露光時間（1秒・2秒・4秒・8秒）を選んだ後、ENTER ボタンを押します。



補足 ・［OFF］を選択すると、長時間露光モードを解除できます。

❹ CANCEL ボタンを押してメニュー画面を終了します。

液晶モニターに長時間露光モードが表示されます。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。



補足 ・長時間露光モードは、オートブラケット撮影では設定できません。
・長時間露光モードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.108「カメラの設定内容を記憶する」

スタンプを入れて撮影する（スタンプ）

パソコン側で設定したオーナー情報やスタンプ文字を入れて撮影できます。

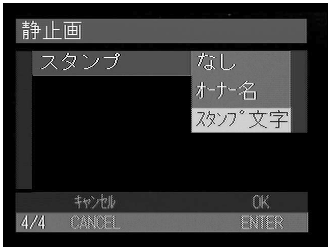
補足 ・オーナー情報やスタンプ文字は、パソコン側で設定し、カメラに取り込んで利用します。→パソコンとの連携編「オーナー情報を設定する」「スタンプ文字を設定する」
・パソコン側で設定していない場合、スタンプ文字は選択できません。

❶ モードダイヤルを［　］に合わせ、MENU ボタンを押します。

❷［スタンプ］を選び、▶ボタンを押します。



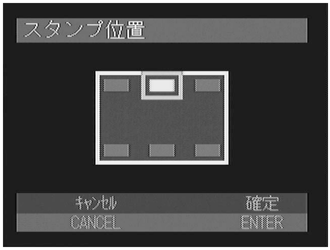
❸ **撮影画像に追加するスタンプ（オーナー名・スタンプ文字）を選び、ENTERボタンを押します。**



補足
- 追加するスタンプ文字は、SETモードで選択できます。→P.115「スタンプ文字を選択する」
- ［なし］を選択すると、スタンプ撮影を解除できます。

❹ **▲・▼・◀・▶ボタンでスタンプ位置を選び、ENTERボタンを押します。**

スタンプが設定されます。



❺ **CANCELボタンを押してメニュー画面を終了します。**

❻ **シャッターボタンを押して撮影します。**

